

2-3. 施設整備の充足状況

2006年のキャンパス整備計画策定以降の施設整備の充足状況は、下記のとおりである。

(1) 学生寄宿舍の整備

1987年に3年制の短期大学からスタートし、2005年には4年制大学となり学生総数は90名増加して360名となった。学生全員が視覚障害・聴覚障害者であるという大学の特性から、学生寄宿舍の利用率が非常に高く、学生数の増加に伴う施設整備が必須であり、2009年に天久保キャンパス・春日キャンパスそれぞれに学生寄宿舍を増設した。

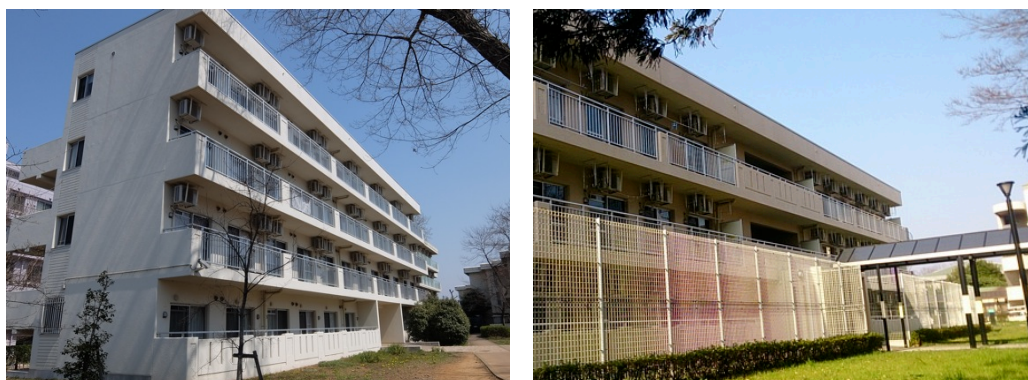


図 2-7 学生寄宿舍（写真左：天久保キャンパス、写真右：春日キャンパス）

(2) 教職課程の開設に伴う施設整備

2012年に非常勤講師宿泊施設を改修し、教職課程開設への対応を目的とした学生支援棟を整備した。



図 2-8 学生支援棟（天久保キャンパス）

(3) 大学院の開設に伴う施設整備

2010年に大学院・技術科学研究科を開設し、その際は建物の増築はなかった。4年制大学の移行時も含め、これまで校舎棟・研究棟の増築がなされてこなかったことから、教室、教職員や大学院生の研究・実験室が不足している。

(4) 専門教育研究の施設整備

保健科学部附属東西医学統合医療センターリハビリテーション科、鍼灸・手技施術部内の充実を図るため、2015年度の開設に向け春日キャンパスにある医療センターの建物を増築工事中である。

(5) 障害者の移動等の円滑化・ユニバーサル化を取り入れた環境整備

「キャンパスマスタープラン 2006」策定以降において、光る点字ブロック、アーケードの敷設など、バリアフリー環境整備に常に取り組んできたが、バリアフリー化の整備不足や設置機器の老朽化・陳腐化が著しく、障害者差別解消法に則した環境整備やユニバーサルデザイン環境整備の進展にそぐわなくなってきた。

既存施設の点検評価および改善計画を立案し、ユニバーサルデザインに配慮した環境整備を進める必要がある。



図 2-9

写真左：広報や緊急連絡用のモニター（天久保キャンパス）

写真右：弱視学生が夜間も光を頼りに歩行できる、光る点字ブロック（春日キャンパス）